

平成28年度事業報告

I はじめに

1. 事業環境

平成28年度の国内新車販売台数(乗用車)は424万台(前年度比103.1%)、VICS対応車載機出荷台数は423万台(前年度比105.2%、対計画117.5%)で、ともに前年度より増加し、経営面では比較的順調な年であった。

また、平成27年4月からサービスを開始したVICS WIDEに対応する車載機出荷台数は212万台でVICS対応車載機出荷台数の半数を占め、VICS WIDEユーザー数拡大が順調に推移していることを確認できた。

2. 社会動向

一方、VICSセンターを取り巻く社会も大きく変わろうとしている。

自動運転の実用化に向けた取り組みは、政府のSIP-adus(戦略的イノベーション創造プログラムの自動走行システム)が平成29年秋から公道での大規模実証実験を実施する計画を発表し、自動走行に不可欠なダイナミックマップを整備するための企画会社が設立されるなど、東京オリンピック/パラリンピックに向け一段と加速された。

海外では、地図メーカーを中心にプローブデータ(ビッグデータ)を大規模に収集し、交通情報を生成・配信する取り組みが進み、大手自動車メーカーとの連携も報道されるようになった。

また、スマートフォンによるナビアプリは日々機能アップしており、カーナビとの機能差が縮小してきた。

このようなクルマ社会の進化に対して、当センターとしてどのように対応するかが重要な課題となってきたことを、次期中期事業計画を睨みながら再認識する年であった。

II 事業遂行状況

1. 概況

平成28年度は、以下の4テーマを重点実施事項として経営資源を集中させ、概ね計画通りに完了させることができた。

1.1 情報品質の維持向上

平成27年4月にサービス開始したVICS WIDEでは、プローブデータを活用して交通情報の質・量改善を東京特別区に限定して実現した。これを全国に拡大するために、民間各社が保有するプローブデータの総合化による効果を検証した。また豪雨情報については国土の50%程度にサービスが限定されていたが、平成29年秋から全国拡大の目途付けをした。

VICSの情報品質を向上させるためには、光ビーコン/電波ビーコン対応車載機を増やすことが効果的であるため、前年度から引き続き3メディア車載機普及拡大策を継続した結果、3メディア対応車載機の出荷割合が前年の11.9%か

ら 17.6%へ向上した。なお、急激な搭載率向上によりメーカー向けインセンティブの総額が過大となったため、関係メーカーの理解を得て次年度からインセンティブ額を減額修正することとした。

一方、現行サービスを継続的に安定して運用するために、感知器故障等で渋滞度が不明なケースを補完する対策の検討、今年度から本格稼働開始した第2システムセンターを利用したバックアップ体制の習熟等を実施した。

VICS WIDE の機能向上（VICS WIDE 第2ステップ）としては、東京オリンピック/パラリンピックに間に合うよう、イベント規制予告、VICS リンク整備を中心に進めることとした。

1.2 提供メディアの充実

VICS WIDE 対応車載機では、FM 多重放送を通して得られる情報量が倍増したため、リンク旅行時間や気象情報等を得られるようになった。このメリットを一刻も早くユーザーが得られるよう、メーカー向けインセンティブ制度とユーザー向けアンケートキャンペーンを実施した結果、今年度の VICS WIDE 対応車載機の出荷割合は 50.1%となった。

一方、FM 多重放送の難受信対策としては、FM 多重の受信状況の実測、新たな測定器の開発、民放 FM 局などの活用可能性の検討などを実施した。なお熊本地震復旧/復興支援のため、要請に応じて臨時災害局設備を九州総合通信局に貸し出した。

1.3 効率的なシステムの検討

京橋センターシステム及び放送所設備が平成 31 年度に設備更新時期を迎えることを契機に、情報提供サービスの安定運用・信頼性向上、サービス拡大対応への柔軟性確保、固定費のコストダウン等を目指し、前年度に策定した基本構想に基づいてセンター/放送所一貫の次期システムの機器構成と調達方針を検討した。オリンピック等ビッグイベントの開催に合わせて立ち上げることを目指して、開発を行う。

1.4 知的財産権の安定的確保

前年度方針を決定した「カーナビ開発のグローバル化に対応した契約改定」について、技術開示契約を締結している全契約先との変更覚書締結を完了し、技術情報の流出リスクを軽減した。

現行 FM 多重のスクランブル方式を用い、多様な通信/放送メディアを介してカーナビに情報を提供可能とする「道路交通関連情報配信システム」について、平成 25 年 10 月に特許申請し平成 29 年 2 月に権利化を完了した。

2. 具体的施策

2.1 情報品質の維持向上

(1) VICS WIDE により向上したサービスを利用できる地域の拡大

プローブデータに基づく渋滞情報提供を全国拡大するのに先立ち、これまで

暫定システムで運用してきたタクシー・プローブデータ収集システムについて、安定運用に向けた改善を進めた。

プローブデータを活用した交通情報提供を全国拡大することについては、十分なデータが必要であることから、自動車メーカー等の民間が保有するプローブデータの活用を検討することにした。今年度は民間6社のプローブデータを総合化することにより、新たに渋滞情報提供が可能となる路線・区間を算定するなどの検討を行った。

また豪雨情報を全国拡大することについては、情報源である一般財団法人河川情報センターと調整を進め、平成29年秋より全国拡大できる目処を付けることができた。

(2) 高度化された光及び電波ビーコン対応車載機の普及促進並びに多様なプローブデータ活用を通じた情報品質の維持向上

VICSの情報品質を向上させるためには、光ビーコン/電波ビーコン対応車載機を増やすことが効果的であるため、前年度から引き続き3メディア対応車載機普及拡大策を継続し、その出荷割合が前年度の11.9%から17.6%へ向上した。なお、急激な3メディア対応車載機の増加によりメーカー向けインセンティブの総額が過大となり、今後もそれが継続することが見込まれたため、関係メーカーの理解を得て次年度からインセンティブ額を減額修正することとした。

なお、高度化光ビーコンの普及支援としてTSPS（信号情報活用運転支援システム）のサービス提供路線マップを当センターのホームページで公開し、ドライバーがどこで利用できるか確認できるようにした。また電波ビーコンの普及支援として、ETC2.0の情報提供サービスの活用事例等を当センターのホームページで公開した。

また今後予想される車両感知器故障等のインフラ設備の劣化対策として、前年度より継続して「道路交通情報サービス維持向上勉強会」を開催し、光ビーコンのアップリンクデータから得られた旅行時間より渋滞度を推定するアルゴリズムの開発を進め、千葉県内でその効果を検証した。

(3) 新たな第2システムセンター活用を含めた現行システム運用の安定性向上

平成28年3月に運用開始した第2システムセンター（バックアップセンター）を活用して、大規模地震等で京橋センターが被災した場合に速やかに第2システムセンターに切替えてサービスを継続できるよう、緊急連絡体制の見直し・切替訓練等を実施し習熟度を高めた。

京橋センターと全国53ヶ所の放送所間の通信は既に地上系の回線で2重化しているが、さらに障害への対応力強化のために衛星バックアップシステムの導入を重要な放送所から順次導入してきた。今年度は、9ヶ所の放送所への設置を完了した。

システムの障害件数、停止時間は、いずれも前年度より減少し、安定的に運用することができた。

(4) オリンピック等ビッグイベントを睨んだ新たなニーズへの対応

ビッグイベント開催時における面的な規制情報や施設情報などについて検討を進め、今年度は臨時駐車場の実態調査と情報提供の事業性検討を実施した。

東京オリンピック/パラリンピックに向けての施策としては、「イベント規制予告」、「競技場周辺エリアの VICS リンク整備」についての検討に着手した。次年度以降関係者と協議をしながら具体化していく。

(5) 外部環境の変化に対応するための中長期課題対応

外部環境の変化、社会ニーズの変化を踏まえ、VICS センターの果たすべき役割も中長期的には変わっていくことが予想される。今年度は高齢ドライバー支援をテーマに、関係省庁、学識経験者、民間会員企業で構成する勉強会を設置し、高齢ドライバーへの情報提供における考慮点を整理し、高度化研究委員会にて報告した。

2.2 提供メディアの充実

(1) VICS WIDE の早期普及による新サービス利用ユーザーの拡大

VICS WIDE 対応車載機の普及促進のため、以下の2つの施策を実施した。

① メーカー向けインセンティブ制度

VICS WIDE 対応車載機の出荷に対して1台あたり100円をメーカーに還付することでメーカーでのモデルチェンジの早期化を促した。今年度は総出荷台数423万台のうち212万台が VICS WIDE 対応車載機となり、目標としていた50%を達成した。

② ユーザー向けアンケートキャンペーン

VICS WIDE 対応車載機を新規に購入したユーザーに対して、アンケートに協力することでクオカードをプレゼントするキャンペーンを実施した。目標定員に迫る応募があり、VICS WIDE の購入者の拡大とともに VICS WIDE の認知度向上に貢献した。さらにキャンペーン応募者を VICS サポーターに誘導することでサポーター数の拡大効果があり、独自のユーザーニーズ調査の基盤を確保できた。

(2) FM 多重受信改善及び大規模災害時の情報提供のあり方検討

FM 多重放送の難受信対策として、中波放送の都市型難聴のための FM 補完局や既存民放 FM 局など現行の VICS-FM 局と異なるエリアの FM 局を利用した場合についてシミュレーションを行い、受信改善への活用可能性について検討した。また、FM 多重のエリア推定用シミュレーションツールの充実、受信状況の実測及び最新ナビをベースにした新測定器の開発を実施した。

大規模災害時の情報提供のあり方については、期せずして4月に発生した熊本地震の復旧/復興支援のため、要請に応じて臨時災害局設備を九州総合通信局に貸し出した。

(3) FM 多重を補完するメディアと事業性の検討

FM 多重放送での受信が困難なエリアにおける他メディアでの補完方策について、携帯通信網など多様な提供メディアの比較評価・課題整理等を行った。長期的な検討テーマとして次年度も引き続き検討する。

2.3 効率的なシステムの検討

(1) 次期 VICS システムの検討

京橋センターシステム及び放送所設備は平成 31 年度に設備更新時期を迎えるため、情報提供サービスの安定運用・信頼性向上、サービス拡大対応への柔軟性確保、固定費圧縮等をめざして前年度は基本構想をまとめた。今年度はこの基本構想に基づきセンター/放送所一貫の次期システムの検討を行った。

センターシステムについては、仮想化基盤の活用、サービス拡大対応の柔軟性を実現するための機能構成、調達方法等を中心に検討した。放送所システムについては、FM 多重変調器を先行開発するとともに、機器構成及び調達方法の検討を実施した。

2.4 知的財産権の安定的確保

(1) VICS WIDE 機器の普及基盤整備のための施策としての当面のロイヤリティ軽減

カーナビゲーションシステムの国内市場における単価下落傾向が進行する中、メーカーの要請に応じ、VICS WIDE の普及を一段と促すため、平成 28 年 4 月より技術開示料を 200 円減額することとした。なお、次期中期事業計画（平成 30～34 年度）策定時に、中長期の投資計画を考慮して再度技術開示料の見直しを行う旨の付帯条件を付けた。

(2) 知財の管理強化のための契約内容の見直し

前年度方針を決定した「カーナビ開発のグローバル化に対応した契約改定」について、技術開示契約を締結している全契約先との変更覚書締結を完了し、技術情報の流出リスクを軽減した。同様に過去データ販売先に対する技術開示契約の変更覚書についても締結を完了した。

その他に、現行 FM 多重のスクランブル方式を用い、多様な通信/放送メディアを介してカーナビに情報を提供可能とする「道路交通関連情報配信システム」について、平成 25 年 10 月に特許申請し平成 29 年 2 月に権利化を完了した。また、現行のスクランブルキーによる管理を更に強化するため、車載機メーカーの協力を得て、実フィールドでの試験を実施した。

2.5 その他

(1) 過去データ（ビッグデータ）の有効活用

前年 7 月の財団設立 20 周年の記念事業としてサービス開始時から現在までの道路交通情報履歴のデータベース化を実施した。これを道路交通対策の充実や情報品質の改善に役立てる方法を検討した。その一つの用途として、車両感

知器の異常箇所を履歴から早期に発見できるシステムについて議論を深め、次年度実用化を目指すこととした。

(2) 海外交流・国際対応

当センターの活動・サービス等の紹介と、各国のキーマンとの意見交換、世界の ITS 技術の動向や実用化に向けた取組等を把握するため、ITS 世界会議 2016 メルボルンに参加し、論文発表・出展・技術動向調査等を実施した。

また海外からの当センター視察来場者は米国、欧州、中国、東南アジアなどから 18 組 215 人あり、VICS サービスの現状、事業運営等について理解を深めてもらった。

(3) ユーザーニーズ調査

スマートフォンの普及拡大など外部環境が変わる中、VICS ユーザーのニーズを的確に把握しサービスを改善していくために、VICS サポーター制度（モニター数：約 5 千名）を用いたモニターアンケート、一般ユーザーを対象にした WEB アンケート、新たに VICS WIDE 対応車載機を購入した人を対象にしたアンケートキャンペーンなどのユーザー調査を多層的に実施した。

(4) 業務管理その他目的達成のための事業

① 業務管理

一般財団法人に移行して 3 年が経過しいくつかの課題が明らかになってきたため、一層のガバナンス強化に向け、会議体や職務権限の再構築（職務権限規程の改正）、複数年に跨る施策の計画立案要領の見直し、事業計画と連動した予算編成、進捗状況の見える化等の改善を実施した。なお、今年度より理事長及び常勤理事等で構成する経営戦略会議を設置し、重要な経営課題を十分に議論し、方向付けした。

並行して、複数年に跨る中長期プロジェクトを遂行しやすくするため、次年度の組織変更を検討した。

また、情報漏洩が企業の信用を失墜させ経営に大きな影響が出たケースが報道される中、さまざまな脅威から情報資産を保護し、安定した事業活動を継続するために、セキュリティポリシーを新設し公開した。

② 財務政策

技術開示料の減額に伴い事業収入が減少するため、予算策定段階で一層の固定費圧縮を実施した。また、将来にわたり安定的に情報提供を継続するため、「情報提供サービス継続引当資産」に 5 億円繰入れた。

③ 広報・IR 活動

4 月にサービス開始 20 周年という節目を迎え、また累計出荷台数も 5 千万台を越えたことを踏まえ、ホームページ、VICS NEWS などの媒体を通して、VICS の知名度向上、ステークホルダーへの情報発信等に努めた。また、毎年恒例となった事業報告会を 7 月に 121 名の参加者を得て開催し、当センターの取り組みについてステークホルダーへ報告した。

Ⅲ 事業計画遂行のための会議の開催

(1) 理事会

①平成28年 5月25日 平成28年度第1回理事会

第1号議案 平成27年度事業報告(案)並びに平成27年度収支計算書(案)及び平成27年度財務諸表(案)承認の件

第2号議案 公益目的支出計画実施報告書(案)承認の件

第3号議案 平成28年度補正収支予算(案)承認の件

第4号議案 評議員候補者の推薦につき承認の件

第5号議案 評議員選定委員会外部委員の選任につき承認の件

第6号議案 平成28年度定時評議員会招集の件

以上の審議が行われ、いずれも原案通り承認された。

報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について

②平成28年 6月15日 平成28年度第2回理事会

第1号議案 理事長(代表理事)選定の件

第2号議案 専務理事(代表理事)及び常務理事(業務執行理事)選定の件

以上の審議が行われ、いずれも原案通り承認された。

③平成28年11月16日 平成28年度第3回理事会

第1号議案 一般財団法人道路交通情報通信システムセンター職員給与規程一部改正につき承認の件

第2号議案 一般財団法人道路交通情報通信システムセンター情報セキュリティ基本方針(案)及び情報セキュリティ管理規程(案)制定につき承認の件

以上の審議が行われ、いずれも原案通り承認された。

報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について

次期VICSシステムの検討状況について

④平成29年 3月14日 平成28年度第4回理事会

第1号議案 平成29年度事業計画(案)及び収支予算(案)承認の件

第2号議案 一般財団法人道路交通情報通信システムセンター組織規程一部改正につき承認の件

第3号議案 専務理事及び常務理事(業務執行理事)業務分担変更の件

第4号議案 3メディア普及促進に関するインセンティブの改訂につき承認の件

第5号議案 事務局長任命につき承認の件

以上の審議が行われ、いずれも原案通り承認された

報告事項 次期京橋センターシステム及び放送所システムの検討状況について

(2) 評議員会

① 平成28年 6月15日 平成28年度定時評議員会

第1号議案 平成27年度計算書類(案)承認の件

第2号議案 理事16名選任の件

第3号議案 監事3名選任の件

以上の審議が行われ、いずれも原案通り承認された。

報告事項 評議員交代について

平成27年度事業報告について

公益目的支出計画実施報告書提出について

平成28年度事業計画並びに平成28年度収支予算について

(3) 事業報告会

賛助会員を始めとするステークホルダーに対する情報公開の一環として、前年度の活動状況、重要テーマについての進捗状況などを報告する。

① 平成28年 7月19日 平成28年度事業報告会（通算第4回）

報告テーマ1 VICS WIDE 初年度のまとめ

報告テーマ2 センターシステム更新の取組み

報告テーマ3 知的財産権の維持管理の現状

報告テーマ4 VICS サポーター制度の活動状況

報告テーマ5 広報・IR活動の紹介

(4) 第VI期 VICS 高度化研究委員会

① 平成28年 6月 8日 第VI期第4回（通算第36回）

② 平成28年12月 7日 第VI期第5回（通算第37回）

③ 平成29年 3月 9日 第VI期第6回（通算第38回）

(5) 事業懇談会

① 平成28年 5月18日 平成28年度第1回

② 平成28年11月 9日 平成28年度第2回

③ 平成29年 3月 7日 平成28年度第3回

(6) 車載機連絡会

① 平成28年 5月18日 平成28年度第1回（通算第56回）

② 平成28年 8月25日 平成28年度第2回（通算第57回）

③ 平成28年11月30日 平成28年度第3回（通算第58回）

④ 平成29年 3月10日 平成28年度第4回（通算第59回）